
化物語 × 涼宮ハルヒの憂鬱

月の光に浴びる魂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

化物語×涼宮ハルヒの憂鬱

【Nコード】

N5198K

【作者名】

月の光に浴びる魂

【あらすじ】

目覚めた時にはすでに学校の教室の中！
色々と混乱する中・・・二人の男女に出会う・・・

プロローグ（前書き）

今回初めて出す小説です！

たまに前書きや後書きでサブキャラも使うかもしれないので
お楽しみ！

ブローグ

いつもの夜だった・・・

ベッドの中に入り寝ていた

だが・・・

（あれ？・・・

何処だここ？ 確か寝ていたはずなのに・・・）

・・・ちやっかり何処のか分からない制服に着替えてるし

ここは・・・教室？

でもいつもと違うな・・・

てか何で皆の前に立ってるんだ？

(・・・そういや戦場ヶ原は!?)

居ない・・・いったいここは何処だ?

??? 「はい 自己紹介」

??? 「は? あ・ああ 僕の名前はー」

・・・こうして僕の不思議な日が始まった・・・

第一話 …… 出会い SOS団 ……

阿良々木暦「僕の名前は阿良々木 阿良々木暦（あららぎこよみ）」

???「じゃあ えーつと… 涼宮の隣だ」

暦「あの… どちら様でしょうか？」

担任「は？ 何言つてんだ？このクラスの担任だよ

お前の 担任 だ

ま まあいいや あいつの隣だ」

（どうなつてんだよ！）

何て思いつつも隣に座る

???「ジーツ」

何だ？あいつ僕のこと見てるのか？

てか睨まれてるような…

???「怪しいわね… 新入部員として入れようかしら」

???「おい ハルヒ あまり犠牲者だすなよ？」

涼宮ハルヒ「犠牲者って何よこのバカキョン！」

涼宮の前にショートヘアーの奴が居た

成程… あいつはキョンと呼ばれているのか…

キーン・・・コーン・・・カーン・・・コーン

(・・・はあ どうしたのか)

するといきなり涼宮にネクタイを掴まれ部屋の中に入れられた

暦「何すんだ!!」

涼宮「良い？あなたは今日からSOS団の一員よ!」

いきなり連れ込んできて変なこと言われた・・・

暦「SOS団？何だよそれ 誰かに助けを求めるのか？
それとも 掲示板に載ってた相談みたいなものなのか？」

涼宮「違うわよ あれはバカキョンが勝手にやっただけ
SOS団は・・・」

S：世界を

O：大いに盛り上げる

S：涼宮ハルヒの団

よ!」

ますます意味わからん・・・

暦「で 誰が入るって？」

涼宮「あんたよ あん たが入るのよ!」

ただでさえ今 何故ここに居るのか分からないのに この状況・・・
一体なんなんだよ

暦「わかったわかった でも」

涼宮「よーしまった一人増えたわよー！ 謎の転校生ゲットー」

ガチャツ・・・

???「・・・あれ？みなれない方ですね
新入部員ですか？」

男の様だが僕のクラスには見なかった・・・
隣のクラスか？

身長は僕と同じくらいで

髪はショートヘアーだ

ニヤニヤ顔で出てきた

暦「いや こいつが無理やり」

涼宮「そうよ 今日転校してきたの」

ガチャツ・・・

また来た・・・今度は誰だ？

キョン「教室に居ないと思ったらやつぱ

こんな事してたのか・・・」っと深く溜息をしていると・・・

ガチャツ・・・また一人

???「すいませーん 少し遅れましたか？」

と のほーん とした声が聞こえてきた

今度は女子だった

身長は少し小さくて

髪型はロングヘアーでオレンジ色だ

・・・気がつかなかったが窓際に

女子がポツンと椅子に座り

本を読んでいる

ショートヘアーで薄紫色だ

涼宮「よし 全員揃ったわね？ 今から新入部員を紹介するわ」

暦「えっと 僕の名前は阿良々」

涼宮「今日転校してきた 阿良々木暦よ」

先に言うなよ・・・僕の自己紹介なのだから・・・

第一話 …… 出会い SOS団 …… (後書き)

(阿良々木) 火憐^{かれん}「火憐だぜ」

(阿良々木) 月火^{つきひ}「月火だよ」

火鱗「やっと始まったぜ 第一話！」

月火「そうだね 火鱗ちゃん でも私たちも出たいかも……」

火鱗「そうだよなー 私たち」

火鱗・月火「ファイヤーシスターズも」

火鱗「出たいよな」

月火「出たいよ」

火鱗「今度作者脅して出して貰うぞ」

月火「やりすぎだよ……」

月火「さて次回第二話」

火鱗「ついに 兄ちゃんは真実を告げられる……」

月火「急すぎる！」

火鱗・月火「次回をお楽しみに じゃあねー」

第二話・・・真実・・・（前書き）

はい コンニチハ

前回の後書きで火鱗ちゃんと月火ちゃんに出て貰いました

これからドンドン出したいと思います

火鱗・月火「ちょっとまてい」

どうした いきなり

火鱗・月火「それじゃあ私たち出番無くなるじゃん」

あー 大丈夫 『火鱗&月火とゲスト達』 みたいな感じにするから

火鱗「それなら大丈夫だな」

月火「大丈夫だね それじゃあ」

火鱗・月火「第二話 スタート！」

第二話・・・真実・・・

古泉一樹「僕は古泉一樹こいずみいつきです 阿良々木 暦・・・ですか
珍しい名前ですね」

朝比奈みくる「わ、わたしは朝比奈みくるあさひなです」

涼宮「そしてあたしがSOS団 団長 涼宮ハルヒすずみやよ
ちなみに古泉くんは副団長よ」

キョン「んで俺が」

涼宮「キョンよ 団員いちその一ね」

キョン「・・・」

そして窓際にいる女子の所へ行き

暦「お前は？」

???「・・・」

暦「・・・」

長門「長門・・・長門有希ながとゆき・・・」

涼宮「一通り紹介も済んだし 早速練習よ!」

古泉「そうですね残り一週間しか無いのですし」
朝比奈「うっ 運動は苦手です」

キヨン「大丈夫ですよ 朝比奈さん 何とかなりますって」
暦「？ 一週間後に何かあるのか？」

涼宮「あ あんた転校してきたばっかで知らないのね いいわ教えてあげる

一週間後に体育祭があつて 部 ごとに二人三脚をやるのよ」

暦「へー で誰と誰が組むんだ？」

涼宮から 組合せの紙を渡された

涼宮ハルヒ×朝比奈みくる 第一

古泉一樹×キヨン 第二

長門有希×阿良々木暦 第三

—
—
＼

曆「へ、へー意外にしっかりしてるんだな」

涼宮「い、意外って何によ団長何だからそれぐらいやるわよ」

曆「・・・なあ 所々破けてるように見えるのだが 気のせいだろうか」

キョン「ああ それはハルヒがー」

涼宮「言っな！」

キョン「破いちゃった」

曆「しっかりしてねえな」

涼宮「・・・あんなら 今度から荷物運びよー!!」

キョンと僕の顔面にドロップキック・・・直撃!

・・・そして練習・・・

涼宮と朝比奈さんは予想通り中々進まず

古泉とキョンは何やら話している

僕らは・・・長門に呼ばれベンチに座っている

こんな所戦場ヶ原に見られたら殺られそうだ

曆「……で 何の用だ？」

長門「………」

中々口を開かない 戦場ヶ原と千石を合わせた様な性格だ
んなことを思っている

長門「……彼方はこの世界の人間じゃない……」

曆「何か衝撃的な事を言われた気がする 僕が……人間じゃない？」

長門「そういう意味ではなく……彼方にとってここは異世界」

「私達は元々ここで生活をしている……けれど」

曆「そこへ僕が来た……って 事 か？」

長門「そう」

曆「なるほどね……お前……やけに詳しいな 何故だ？」

長門「私は情報統合思念体 全宇宙に広がる情報系の海から発生した、非常に高度な知性を持つ情報生命体。実体を持たず、いかなる光学的手段でも観測することは不可能。有機生命体と直接コミュニケーションできないため、私を始めとする対人間用インターフェースを派遣した。自律進化を遂げる手がかりとして、ハルヒを観察している。」

「統合」思念体といってもその意志は一つではなく、様々な思惑が交錯している。そのため「主流派（中道派）」「急進派」「穏健派」などの派閥が存在し、時に対立する。」

……僕には長門が何を言ったのか全く分からない……

暦「・・・け、結局どういう奴なんだお前は」

長門「情報統合思念体 彼方たち人間から言々と宇宙人のような者・
・・・」

「そして古泉一樹は超能力者

朝比奈みくるは未来人」

暦「この世界は目茶苦茶だな」

長門「そう 目茶苦茶」

暦「・・・あ、あああああ！」

僕は大きな出来事に出くわしていた

長門「どうしたの？」

暦「てこと僕の世界・・・元の世界には戻れないのか!？」

長門「そこまでは分からない

だけど異世界 私達の世界にこれたのなら
必ず方法はある」

・・・てか家とかねえ どうしよう

長門「私の家」

暦「分かるのか？」

長門「口に出ていた」

暦「でも迷惑かけるだろ あ 一人暮らしか？」

長門「そう」

暦「戻るまで泊っていいのか？」

長門は数ミリ首を動かした

生活には困らないようだ

その時

長門が僕の影に触った
すると

???「なんじゃ 気付いておったのか」

忍!？ こいつは忍野忍^{おしのしのぶ} 吸血鬼^{きゆうけつき}だった^{きゆうけつき}が色々事情があり人間に近い状態になっている

長門「ずっと」

忍「そうか」

暦「忍 なんですぐ出てこなかつー」

涼宮「あんたたち 早く練習しなさい」

遠くから聞こえた声は涼宮だった

忍「さてワシはそろそろ戻るとする 夜ドーナツ買っておいておくのじゃ

では」

..... そして練習を終え長門について行った

暦「ここか？」

長門「そう」

マンションの中に吸い込まれるように入っていき扉の前まで来た

暦「失礼します」

長門「・・・いらつしゃい」

・・・長門からこんな言葉がでると思わなかった

暦「……………」

何も無い……………」

ほとんど家具が置いてない
テーブルと飲み物ぐらいだ

長門「……………食べる？」

暦「あ、ああ 何でも良いぞ」

そして長門は何か作ってくると言い目の前を歩いて行った
……………」

暦「忍」

忍「なんじゃ」

暦「ドーナツ」

忍「すまないな」

暦「何故すぐ出てこなかった！」

忍「……………様子を探っておった

どうやら怪異の仕業ではない」

暦「？それ以外に何かあると言うのか？」

忍「わからんが……………おそらく長門が知っているじゃろっ」

……………今日は色々ありすぎて疲れた 明日にしよう

長門が戻ってきた……………シチューを作ってきたらしい

暦「いただきます」

長門「……………ます」

そして布団の中に入り寝た

元の世界に戻るのか心配だ……………
いや あした考えよう

•
•
•
•
•
•
•
•
•
•

第二話・・・真実・・・（後書き）

火鱗「火鱗だぜ」

月火「月火だよ」

火鱗「それにしても兄ちゃん女性の家に泊まるなんて堂々としてるよな」

月火「だよね こんな所ガハラさんにみられたら・・・」

戦場ヶ原「私が何か？」

火鱗・月火「・・・逃げろ！」

戦場ヶ原「逃がさないわよ」

火鱗「じ、次回第三話 何事もなくただ平和に暮らすよ」

月火「なんもないのかよ！」

第三話・・・異世界での休日 前編・・・

長門「・・・起きて・・・おき・・・」

小さい声がする

忍「いつまで寝とるんじゃない？」

暦「ふあゝ まだ眠い」

長門「彼方は今日起床し学校へ行かなければならない」

とにかく重い体を持ち上げ長門と一緒に学校へ・・・

暦「なあ 長門？」

長門「・・・何？」

暦「僕は 一昨日寝て 起きたらここに来ていた・・・
もしかしたらお前は知っているんじゃないか？」

長門「・・・知っている」

忍（やはり・・・な）

暦「・・・教えてくれないか？」

長門「・・・」

不意に後ろから

キヨン「よつ 阿良々木」

涼宮「・・・ど

うしたの有希？」

暦「キヨンか・・・そういやSOS団って何が目的何だ？」 長門「・

・ 何でもない」

キヨン「宇宙人と遊ぶことらしい 正直何がしたいのか俺にはわからー」

涼宮「何よそれ！？ 私がおかしいって事？ このバカキョン！」
でました！お得意のドロップキック
朝っぱらから騒がしいなあ

涼宮とキョンが話している時に

長門が先行しつつ僕の耳元で

長門「家で・・・」・・・やれやれ

授業が終わり 放課後 部室に集合 何やら会議があるらしい

涼宮「皆集まったわね では会議を始めるわ

明日 明後日 明々後日 三日間連休です なので・・・」

大きく息を吸い始めた

涼宮「三日間遊び倒そうと思います！！！！！」

かなりうるさかった・・・

でもたまにはいいかもしれない

元の世界だと厄介な事件に巻き込まれすぎているからだ

蟹 蝸牛 猿 蛇 猫 まだまだあつた気がする・・・

でもせっかくの休日 異世界でも休日は休日だ

涼宮「文句ないわね！？

では今日は解散」

そして皆 涼宮に続くかの様に帰って行った 僕と長門だけだ

長門は少し本を読んでいくと言っていたので僕は勉強をした

曆「……そろそろ帰るか？」

長門「……わかった」

家につき 朝の事を思い出した

曆「一体 何故 僕はここにいる」

長門「……涼宮ハルヒ」

曆「！？ 涼宮？」

長門「涼宮ハルヒは神の様な存在 願ったことを現実にしてしまう」

曆「……あいつは『異世界人と会いたい』と願ったわけか それで現実になったと」

長門「……そう」

曆「改めて聞くが……元の世界に戻る方法は？」

長門「……ある」

曆「何故言わなかった？」

長門「元の世界で彼方に関する記憶は無くなっている」

・ここまで来ると慣れてきた気がする

曆「そうかい だからか」

長門「そう」

僕は溜息をつく

曆「異世界に来て厄介事とは離れられない体質なんだなあ」

長門「元の世界での厄介事とは？」

お？興味でも持ったのだろうか？

そして今まで体験した事を話した

暦「・・・つう事で

戦場ヶ原が蟹で

はちくじ

八丸寺が蝸牛

かんばる

神原が猿

せんごく

千石が蛇

はねかわ

羽川が猫

そして僕が吸血鬼だ」

長門「そう」

暦「明日から遊ぶらしいしそろそろ寝るか」

長門「・・・寝る」

明日に備えて眠りについた

ちなみに今日の晩飯はカレーだった

第三話・・・異世界での休日 前編・・・（後書き）

火鱗「火鱗だぜ」

月火「月火だよ」

月火「前は前回は大変な目にあつたね・・・」

火鱗「だな・・・」

火鱗「次回第四話 休日が始まるよ！」

月火「切り替え早や！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5198k/>

化物語×涼宮ハルヒの憂鬱

2010年12月10日21時05分発行